

# 歌枕・歌の種類と歌意，地理・歴史との関係性

## 抄 録

小学6年生の時に友人の影響で百人一首が好きになり，百人一首の種類と歌の意味，歌枕について興味を持ったので，研究テーマとした。本研究は，歌の種類と歌枕の関係性を歌意と照らし合わせ，そこで明らかになった関係性を，地理，歴史上の観点から関連性を明らかにすることが目的である。研究方法は，文献とウェブでそれぞれの歌枕の地理や歴史，歌意について調査し，集めた資料をもとに，分析することだ。その結果，歌枕が，佐渡と隠岐の歌に流罪が関係していること，また，大阪，京都，奈良に歌枕が多いのは，都があったからだということが分かった。

キーワード：百人一首，歌枕，歌意，部立

## 1. はじめに

### 1.1 研究動機

私は，中学生になってから，以前から興味があった百人一首についての本を読んだ。その時に，百人一首には九つの種類があることや，歌枕についてなどを知った。それと同時に，それぞれの歌の歌意について興味を持った。その後，百人一首の専門書をいくつか読み先行研究を調べてみると，それぞれの専門用語についての説明は文献中にもあったのだが，それらの関係性についての研究はなかった。そこから百人一首の種類，歌枕の場所や歌意についての関係性を明らかにしようと思い，今回の研究テーマに設定した。

### 1.2 研究目的

まず，歌の種類と歌枕について，歌意と照らし合わせながら関係性を見つける。次に，そこで明らかとなった関係性について地理，歴史上の観点から客観視したときに，何か関連していることがないかを考察する。

## 2. 研究方法

### 2.1 調査対象

今回，研究対象とするものは，歌枕が詠みこまれている全ての歌，また，一回以上詠まれている歌枕である。なお，一首に二つ以上の歌枕が詠まれている場合は，その全てを調査対象とする。

### 2.2 調査方法

調査対象の歌についてのホームページを調べ，それぞれの歌に詠みこまれている歌枕の場所や歌意を調査する。その他にも，百人一首についての専門書で文献調査を行う。集めた資料を地図に書き込み，分析する。歌枕の地理や歴史についても，それぞれのホームペー

ジで調査する。

### 3. 研究結果

#### 3.1 歌枕の場所，歌について

##### 3.1.1 歌枕

歌に詠みこまれている土地のことを歌枕という。(三木，中川，1988) 例えば、「春過ぎて夏来にけらししろたえの衣ほすてふ天の香具山」という歌の歌枕は、天の香具山になる。

##### 3.1.2 歌の出典

百人一首の歌は，全て第十代までの勅撰集の中から出典されている。

勅撰集の成立年代と出典数

和歌集名	成立年代	出典数
古今和歌集	九〇五年	二十四首
後撰和歌集	九五二年	七首
拾遺和歌集	一〇〇五～〇七年	十二首
後拾遺和歌集	一〇八六年	十四首
金葉和歌集	一一二五年	五首
詞花和歌集	一一五一年	五首
千載和歌集	一一八八年	十四首
新古今和歌集	一二〇五年	十四首
新勅撰和歌集	一二三五年	四首
続後撰和歌集	一二五一年	二首

##### 3.1.3 部立

歌の種類のことを部立という。百首を勅撰集の部立によって分類すると，次のようになる。

- ・四季…三十二首（春/六，夏/四，秋/十六，冬/六）
- ・恋…四十二首
- ・羈旅…四首
- ・離別…一首
- ・雑…二十首

##### 3.1.4 歌枕の場所

歌枕の場所は，東北地方から中国地方まで分布しており，その中でも百人一首に詠みこまれている歌枕は三十八カ所ある。特に大阪，奈良，京都には多く分布しており，全ての歌枕のうち，二十七カ所の歌枕がある。(図1)

## 3.2 歌枕の地理，歴史

歌枕の分布に特徴があったところについて，その場所の地理的特徴，歴史的特徴の二つの観点から調べた。

### 3.2.1 地理

歌枕の場所に関連する地理について調べた結果，歌枕がどこにあるのかを知ることができた。地図に歌枕の場所と歌の種類がわかるように書き表してみたが，同じ場所が詠み込まれている歌でも種類は違っていた。また，歌意と歌枕の場所についても，歌枕が同じでも歌意は違っていた。よって，部立，歌意や歌枕の場所の地理には，関係性が無かったといえる。

### 3.2.2 歴史

歌枕の場所に関連する歴史について調べた結果，その場所に残る伝説や，昔の様子，起こった出来事について知ることができた。その内容を十一の種類（※1）に分類し，歌意と照らし合わせてみると，佐渡と隠岐が詠みこまれている三首が，歌枕の歴史的背景にも歌意にも流罪が共通していた。よって，部立，歌意や歌枕の場所の歴史には，流罪について関係性があったといえる。

[歌意]

#### ・佐渡

「ももしきや～」…宮中の，古びた軒端のしのぶ草を見るにつけても，やはりしのびきれない，栄えていた昔の御代であることよ。（佐渡の概要より）（図2）

#### ・隠岐

「わたの原八十島かけて～」…海原の多くの島々をめざして漕ぎ出ていったと，都にいる恋しいあの人に伝えておくれ，漁師のつり舟よ。

「人をもし～」…ある時には人をいとおしく思い，ある時には人を恨めしく思う。意にそわず，つまらない世の中を思うゆえに，あれこれと思い悩むわたしは。（コトバンクより）



近畿地方の歌枕の分布図（図1）



佐渡の流刑地（図2）

（※1）他に，「霊場，霊山」，「自然災害」，「群の分割」，「景勝の地」，「信仰の道」，「寺，神社がある」，「交通の中心」，「伝説がある」，「都があった」，「国司」に分類した。その中で，関係性は見つからなかった。

### 3.3 近畿地方の歌枕

歌枕の場所を地図に書き表すと、近畿地方（特に大阪，京都，奈良の三県）に多いことが分かった。そこで、「都があるから歌枕が多い」という仮説を立てて、研究することにした。方法は、出典と歌番号で比較することだ。

#### 3.3.1 出典

三県にある歌枕の場所が詠みこまれている歌が、それぞれの和歌集から出典された歌なのかを調べた。

歌枕の場所による、勅撰集の出典数の比較

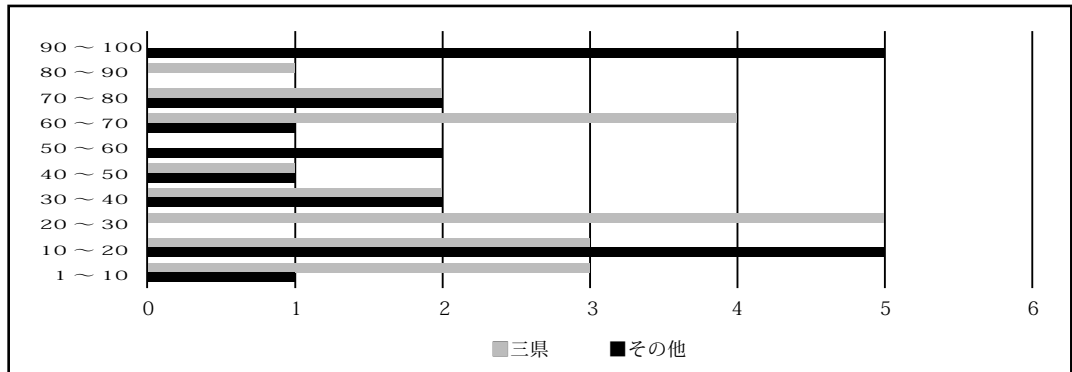
和歌集名	三県に歌枕がある歌	その他
古今和歌集	七首	四首
後撰和歌集	三首	一首
拾遺和歌集	二首	なし
後拾遺和歌集	二首	四首
金葉和歌集	一首	一首
詞花和歌集	一首	なし
千載和歌集	五首	一首
新古今和歌集	五首	一首
新勅撰和歌集	三首	一首
続後撰和歌集	なし	二首
計	二十九首	十五首

歌枕の場所による出典先にあまり違いはないことがわかる。

#### 3.3.2 歌枕

三県のグラフに特徴のある歌番号とその年代

歌番号	年代
1（以上）～10（未満）	630年～700年代後半頃
20～30	900年代前半頃
70～80	900年代後半～1000年代前半
90～100	1000年代後半～鎌倉時代



歌枕の場所と歌番号の比較

百人一首の歌番号は、時代順につけられているため、作者の生きていた年代を調べると歌が作られただいたいの年がわかる。歌番号の1～40と70～80の奈良時代と平安時代に作られた歌の割合が、その他の歌枕の場所の歌に比べて多いことがわかる。また、鎌倉時代頃に作られた歌は三県に歌枕のある歌が無いこともわかる。

#### 4. 考察

歌枕の場所の地理的特徴をウェブで調べ、それが部立と関係しているのか調査したが同じ部立に共通する地理的条件に関係性は見つからなかった。また、歌意と地理的条件も関係していなかった。歴史的特徴の調査についても、地理的特徴を調査した時と同じくウェブを使って調べ、「霊場、霊山」、「自然災害」、「群の分割」、「景勝の地」、「信仰の道」、「寺、神社がある」、「流罪の地」、「交通の中心」、「伝説がある」、「都があった」「国司」の十一の種類に分類した。その内容が、部立や歌意に関係していることがないか調査すると、「流罪の地」に分類された三首全てに、部立や歌意に流罪のことが関係していた。そして、京都、大阪、奈良の三県に歌枕が集中している理由について、「都があるから」という仮説を立て、三県に歌枕がある歌とその他の歌で、歌の出典と歌番号の観点から調査した。歌の出典は、二つを比較したときにあまり差がなかったが、歌番号については、三県に歌枕がある歌が、前半の奈良、平安時代に作られた歌が多かった。また、百人一首の作者は、皇族関係者や豪族、貴族であり、生活に都が関係している人達であった。

#### 5. 結論

本研究で、歌枕の地理的特徴と部立、歌意における関係性がないこと、歌枕の歴史的特徴と部立、歌意における関係性について、流罪に含まれた三首において関係性があること、そして、歌枕が京都、大阪、奈良に多いのは、都があったからだということがわかった。地理的特徴の観点から見たときに関係性がなかったのは、その歌枕の場所には、作者それぞれの思い入れがあるからだと思う。実際に、同じ「逢坂」でも、作者によって部立や歌意が異なっていた。このような事例が、多くの歌枕であった。歴史的特徴の観点から見たときに、流罪に関係性があったのは、作者の心情に関係するような、大きな事だったからだと考える。特に、「霊場、霊山」や「寺、神社がある」、「交通の中心」は、歴史的には同じ内容でも部立や歌意がそれぞれ異なっていた。また、佐渡や隠岐が詠まれていて、歴史的特徴として「流罪」に分類された三首は、部立にも歌意にも流罪のことが関係していた。そして、京都、大阪、奈良に歌枕が多い理由を調査した時に、歌番号と作者の観点から結論を導き出した。歌番号で作られた順番を知り、参考書からその歌が作られたであろうだいたいの年を調べた。三県に歌枕がある歌は、その他の歌と比べて、七〇〇年代、九〇〇年後半～一〇〇〇年代前半が多いことから、奈良時代や平安時代に作られた歌が多かった。また、作者が皇族関係者や豪族、貴族で世の中の中心となる人物であった。この二つの事例から、歌枕が三県に多いのは都があったからだと考えた。歌の出典でも調査を行ったが、勅撰集が作られた時代と歌が作られた時代が異なっているため、この調査で使える資料にはならなかった。

## 6. 今後の課題

今回の研究では、多くのウェブを使い一つの歌枕について調査したため、参考文献が多くなってしまい、同時に信憑性についての検討も多々必要になった。また、この研究では、地理と歴史の二つの観点からの調査となり、研究としてまだまだ不完全である。課題として、調査の仕方を信憑性が上がるよう工夫すること、そして、この他の多くの視点から関係性を見つけていくことが挙げられた。

## 7. 参考文献

隠岐（隠岐）ーコトバンク<https://kotobank.jp>（2018年8月20日）

佐渡の概要 | さど観光ナビ<https://www.visitsado.com>（2018年8月14日）

三木幸信・中川浩文（1988）『評解新小倉百人一首』京都書房